



歴史を感じる旅に
さあ出かけよう!

岩槻駅周辺 観光マップ

CONTENTS

- 城下町岩槻、岩槻城……………2
- 岩槻城址公園……………4
- 岩槻と人形、五節句のまち岩槻…6
- 岩槻人形博物館……………9
- にぎわい交流館いわつき……………11
- イベント歳時記……………11

岩槻
IWATSUKI



城下町岩槻

鎌倉時代から室町時代頃の岩槻は鎌倉街道の一つである奥大道おくだいどうの荒川渡河地点にあり、交通の要衝として古くから町場が形成されていたと推測されます。その後戦国時代になり、岩槻城が築城されるとともに城を中心とする都市形成も本格化されました。そして戦国時代末には城と武家屋敷や町場の周囲おおがまえに大構と

呼ばれる土塁と堀が築かれ、岩槻城と一体化した城下町岩槻が確立しました。

江戸時代になると、近世の身分秩序に基づき城下町が再編され、大手門外の一帯を中心に武家地が、また日光御成道など街道沿いには町屋が配置され、岩槻は宿場町としての性格も併せ持つようになりました。

武家屋敷が並んでいた通りを「〇〇小路」、町屋があった通りを「〇〇通り」として、地図や木製案内サインで紹介していますので、往時を偲んで散策してみてください。

岩槻城

岩槻城は15世紀後半に築かれた城で、別名“白鶴はくつる城”とも言われています。

16世紀の前半には、岩付太田氏が城主となっていました。永禄10年(1567)に城主太田氏資が戦死すると、小田原北条氏の直接支配となりました。その後、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原征伐の際、岩槻城も落城し、同年豊臣秀吉が北条氏を滅ぼすと徳川家康が江戸に入り、岩槻城も徳川の家臣高力清長の居城となりました。

江戸時代になると岩槻城は江戸北方の守りの要として重要視され、幕府要職の譜代大名の居城となり、幕末までに9家24代の藩主が治めておりました。

明治維新後、岩槻城も廃城となり、城の建物は各地に移され、土地は払い下げられて、およそ400年の長

きにわたって続いた岩槻城は終焉の時を迎えました。

岩槻城が築かれた場所は現在の市街地の東側で元荒川の後背湿地に半島状に突き出た台地の上に本丸、二の丸、三の丸などの主要部があり、沼地を挟んで北側に新正寺曲輪、南側に新曲輪・鍛冶曲輪等がありました。城の西側に武家屋敷や町屋が広がり、また、城と城下町を囲むようにして全長約8kmの大構と呼ばれる土塁と堀が築かれていました。



岩槻古城八景「鶴首夕照」 岩槻郷土資料館

岩槻城址公園

岩槻城の新曲輪・鍛冶曲輪と城郭を取り巻いて掘られた空堀を利用して作られた公園です。約17万9000平方メートルの敷地には多くの自然林が残り、春は約600本の桜、初夏はスイレン、秋は紅葉など四季折々の自然が楽しめます。

朱色の八つ橋がかけられた菖蒲池、噴水の他、野球場やテニスコート、遊具が設置されたわんぱく広場もあり、市民に親しまれています。

-  トイレ
-  身障者用トイレ
-  駐車場
-  駐輪場



岩槻と人形

埼玉県は日本最大の人形の生産地です。中でも、岩槻は関東大震災以降、人形の一大生産拠点として成長しました。

岩槻に人形産業が発展した背景には、周辺の鉄分を含んだ水が顔の発色に良いこと、また岩槻周辺は以前から桐の産地で桐箆笥作りなどにより頭の材料の桐子が入りやすかったことなどがあげられます。

岩槻の人形は、主に岩槻人形と呼ばれる衣裳着人形と江戸木目込人形の2種類があり、両方とも経済産業

大臣指定『伝統的工芸品』の産地指定を受けており、今日でも数多くの職人により、昔ながらの手仕事で作られています。



岩槻人形 (衣裳着人形)



江戸木目込人形

江戸木目込人形の制作体験が可能な人形店

いふじ人形店	岩槻区城町2-1-89	048-758-1222
工房ゆうき※ (人形の金重)	岩槻区東町2-5-1	048-757-5038
寿光工芸	岩槻区岩槻5078-2	048-756-0811
人形の東玉※	岩槻区本町1-3-2	048-756-1111
森田人形店※	岩槻区宮町1-1-3	048-756-2417

※は工房・作業場見学も可能です。

工房・作業場見学が可能な人形店

有松人形工房	岩槻区美幸町5-13	048-756-3529
鈴木人形	岩槻区本町3-5-16	048-757-0223
中島敏人形店	岩槻区本町5-11-33	048-756-1244
光本	岩槻区本町5-8-17	048-757-6721

制作体験及び見学を希望される場合は、必ず事前に各店舗へ相談してください。(繁忙期等対応できない場合もあります。)

五節句のまち岩槻

昔から日本人は春夏秋冬の季節の移り変わりに合わせ、様々な行事を行ってきました。その中の特に重要なものを取り上げ、五節句というようになりました。

「節句」は元来「節供」と書き、季節の食べ物を神様に供え、季節の変わり目の邪気を払い、無病息災を願うという習わしです。

じんじつ 人日の節句／七草の節句	1月7日
じょうし 上巳の節句／桃の節句	3月3日
たんご 端午の節句／菖蒲の節句	5月5日
たなばた・しちせき 七夕の節句／笹竹の節句	7月7日
ちようよう 重陽の節句／菊の節句	9月9日

岩槻人形博物館

日本初の公立の人形博物館として2020年2月22日にオープンした岩槻人形博物館は、大きな切妻屋根と杉板の木目模様があらわれた外観が印象的な建物です。

収蔵品の柱は、人形玩具研究家、日本画家として活躍した西澤^{にしざわ}笛^{てき}畝^ほ (1889～1965) が収集したコレクションで、その他のコレクションや資料とあわせて5,000点以上の人形関係資料を収蔵しています。

特に江戸時代の雛人形、御所人形など古典様式の人形が充実し、その一部を常設展示しているほか、岩槻をはじめとした埼玉県内の人形作りを紹介した展示や、日本や世界の人形に関するバラエティ豊かな企画展・特別展も定期的に開催しています。人形文化の奥深さと魅力を感じられる施設です。

【利用案内】

開館時間：午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、

年末年始（12月28日～1月4日）、臨時休館等

観覧料：一般／300円（200円）、

高校生・大学生・65歳以上／150円（100円）、

小学生・中学生／100円（50円）

※（）内は20名以上の団体料金

※展覧会により観覧料が異なる場合があります。

アクセス：

- ・東武アーバンパークライン（野田線）「岩槻駅」東口から徒歩約10分
- ・埼玉高速鉄道「浦和美園駅」東口から国際興業バス岩槻駅行で「駅前通り」バス停まで約30分。バス停より徒歩約7分



岩槻人形博物館外観



古今雛 江戸時代



久保佐四郎作「矢の根」
昭和時代初期

■岩槻人形博物館

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町6-1-1

TEL：048-749-0222 FAX：048-749-0225

HP：<https://ningyo-muse.jp/>



にぎわい交流館いわつき

岩槻人形博物館に隣接して岩槻の歴史と文化の発信、産業と観光の振興そして地域活性化の拠点となるにぎわい交流館いわつきがあります。

この施設では、区内をはじめとした観光情報の提供

や人形博物館企画展と連携した講座・ワークショップの開催などのほか、地元特産物を扱ったカフェ・ショップや岩槻の伝統工芸を体験できるクラフトルームなどがあります。

【利用案内】

開館時間：午前9時～午後9時30分

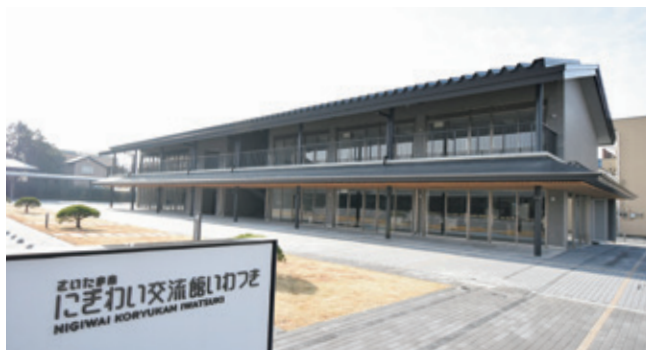
休館日：年末年始(12月29日～1月3日)

■ にぎわい交流館いわつき

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町6-1-2

TEL：048-757-2981 FAX：048-793-4074

HP：<https://nigiwai-koryukan.jp/>



にぎわい交流館いわつき外観

イベント歳時記

- 2月 まちかど雛めぐり(岩槻駅東口)
- 3月 流しびな(岩槻城址公園)
- 4月 桜まつり(岩槻城址公園)
- 5月 玄奘祭(慈恩寺～玄奘塔)
- 7月 朝顔市(岩槻駅東口クレセントモール)
初山(富士浅間神社)
- 8月 花火大会(岩槻文化公園)
人形のまち岩槻まつり(岩槻駅東口)
- 10月 岩槻やまぶきまつり(岩槻文化公園)
- 11月 城下町岩槻鷹狩り行列(岩槻駅東口)
人形供養祭(岩槻城址公園)



まちかど雛めぐり



桜まつり



城下町岩槻鷹狩り行列



流しびな



人形のまち岩槻まつり

岩槻散策マップ

岩槻区を地区ごとに分け、各地区の散策モデルコースと観光スポットの解説を掲載した岩槻散策マップを下記施設等で配布していますので御活用ください。



岩槻散策マップ

● 岩槻散策マップの主な配布場所

- 岩槻区観光経済室（岩槻区役所4階）
- 岩槻観光案内所（岩槻駅東西自由通路内）
- にぎわい交流館いわつき（岩槻区本町6-1-2）
- 岩槻郷土資料館（岩槻区本町2-2-34）

発行／さいたま市岩槻区観光経済室

〒339-8585

さいたま市岩槻区本町3-2-5WATSU東館4階

TEL：048-790-0118

FAX：048-790-0260

E-mail:kanko-keizai-iwatsuki@city.saitama.lg.jp

このマップは10,000部作製し、1部あたりの経費は48円です。